

「憲法 9 条をノーベル平和賞に」 2014 年 4 月 14 日

人間は元来、保守的である。その保守性が生存と歴史を保ってきた。時代を革新しようとする人は、居場所を失った人か、夢見る人かであろう。時代から置き去りにされ、苦悩している人は、当然変革を望む。また、理想を追って、あるべき社会を模索する人は、革新を期待する。

我が家は保守的で、購読するようになってから、新聞は一貫して「朝日新聞」であった。幾つもの新聞を読んでいる人もいるが、経済的理由で、送られてくる 3~4 の新聞を除いて、商業新聞は「朝日新聞」に固執してきた。

現職牧師を隠退し、生活環境が変わった。この機に、新聞を「東京新聞」に変えた。論調の違いに驚き、変えて良かったと実感している。

憲法観、原子力政策に関し、歯切れのいい、鋭い記事を報道している。最近、「憲法 9 条をノーベル平和賞に」というテーマを大きく取り上げている。このテーマは、ずいぶん前から、取沙汰されていた。先日、姉が引っ越した我が家を訪ねてきた。その時、「9 条をノーベル賞に」の署名用紙を持ってきて、署名を求められた。

ノーベル平和賞は、長年、戦争をしない国造りをしたという理由で、佐藤栄作元首相が受けた。プラハで、核兵器の廃絶を演説したオバマ大統領も受けた。笑ってしまいそうな受賞劇であった。

今回の「9 条をノーベル賞に」は、神奈川県座間市の鷹巣直美さんという主婦が始めた活動である。昨年夏、市民実行委員会が発足し、推薦資格を持つ大学教授らに呼びかけ、署名活動を繰り広げた。42 人の学者が賛同し、2 万 5 千人分の署名と共に応募した。

平和賞は、9 条に与える訳にはいかない。個人、または団体が受けるものである。9 条を保持する「日本国民」が受賞の対象となる。ノーベル賞委員会から受理し、ノミネートされたとの通知が届いた。

実行委員会のメンバーは「改憲を目指す安倍政権を、国際的な力で穏便に止められる手段だと共感を得た。多くの人が平和憲法を尊び、危機感を持っていると実感した」と話しているという。

平和賞を受賞するようになった時、日本国民を代表して誰が行くだろうか。まさか、安倍首相が行く訳にはいかないだろう。さしずめ、鷹巣さんであろうか。夢が、一つ膨らんだ。